

18.2～4 【立上げ期】

- ・ 検討会議設置&進め方検討
- ・ 住民ワークショップでまちの意見収集



18.5～10 【情報共有、意見交換期】

- ・ 4つの専門部会での情報共有、意見交換・集約
- ・ 施設一体型小中一貫校の見学会なども開催
- ・ 住環境については市の考え方も提示



18.10～ 【詳細検討、実践期】

- ・ 個々の検討テーマを設定し、議論を深掘り
- ・ (子育て等) 地元有志+市でプロジェクトチームを立ち上げ。“できること”から、検討・試行開始
- ・ (学校) 部会参加者以外にも地域へ情報提供
- ・ (住環境) 土地活用について事業者へヒアリング

など



試行イベント  
の開催



個別テーマの  
詳細検討



地域・事業者等  
から意見収集

大まかにまとめると…

これまでのみなさんの意見にもとづいた、このまちを考える「大切な目線」

- ① できることから「段階的」に。
- ② 「地域住民」と「これから来る住民」のくらし第一。
- ③ 基本は「コミュニティ」。多様な人を受け入れ・サポート。
- ④ 取組みは「地域（住民・団体）」「市」「民間事業者」等の「協働型」で。
- ⑤ 次世代の子ども・若者を地域一丸で呼び込み・育て・交流。

課題（キーワード）

取組みの方向性（仮）（●：目の前のこと ○：中長期的なこと）

高齢者等の暮らし

- 孤立・引きこもり高齢者への対応
- 高齢者が安心して暮らせる住宅・施設

地域の子育て環境

- 子ども・親の居場所づくり
- 学校教育と連動した地域での子育て ○ 民間住宅の誘導

住宅・住環境

- 市営の老朽化対応 ● 若い世帯が入居可能できる住まい
- 市営住宅・公共施設の再編、生活利便施設の導入

コミュニティ・人

- 地域の取組み・活動の輪の拡大、ネットワーク化
- 地域外やこれから来る住民との交流強化 ○ 次世代の人材育成

まちづくり構想へ反映

<今後、検討会議で主に協議して、まとめること>

- ① まちの目標像 や キャッチコピー  
…地域住民、団体・事業者、市などの関係者の共通認識となる  
まちの将来に向けたキーワードづくり
- ② 取組みの方針  
…「まちの目標像」の実現のために、取り組むべきこと
- ③ 推進方策  
…どのように構想を実現するか、関係者間の連携・協働・役割分担等